

《症例報告》

心室瘤様の高度な局所壁運動異常を呈し、
負荷心筋シンチグラフィがその診断に有用であった冬眠心筋の一例

藺田 正浩* 恒成 博* 寺師 利彦* 川畑 和代**
堀ノ内 治** 小寺 顕一** 田中 康博** 中村 一彦***

要旨 症例は70歳，女性．心電図にてV₁₋₃にQSパターンとST上昇を認め，左心室造影にて前壁中隔に心室瘤様の高度な局所壁運動異常を認めた．一見心筋生存性のない心室瘤と思われた患者において²⁰¹Tl心筋シンチグラフィにて心筋生存性ありと考えられたため，左前下行枝の高度狭窄に対し経皮的冠動脈形成術(PTCA)を施行した．3か月後の確認造影では著明に左心室壁運動の改善がみられ，ほぼ正常にまで心機能が回復した．心室瘤様の高度な局所壁運動異常を呈し，負荷心筋シンチグラフィがその診断に有用であった hibernating myocardium (冬眠心筋) の症例を経験したので報告する．

(核医学 38: 229-235, 2001)